

## 目次

### 第 I 部

1. 序曲/シンフォニア	7
2. 慰めよ、わたしの民を	8
3. すべての谷は埋め立てられ	9
4. このようにして、主の栄光が現わされると	9
5. まことに、万軍の主はこう仰せられる	10
6. あなたがたが尋ね求めている主	11
7. だれが、この方の来られる日に耐えられよう	11
8. レビの子らをきよめ	12
9. 見よ。処女がみごもっている	13
10. 良い知らせを伝える者よ	13
11. 見よ。やみが地をおおい	14
12. やみの中を歩んでいた民は	15
13. 私たちのために	16
14. 田園交響曲	17
15. 羊飼いたちが	18
16. すると、主の使いが	18
17. 御使いは彼らに言った	19
18. すると、たちまち	19
19. 栄光が、神にあるように	19
20. 大いに喜べ	20
21. そのとき、目の見えない者の目は開き	21
22. 主は羊飼いのように、その群れを飼い	21
23. 彼のくびきは負いやすく	22

### 第 II 部

24. 見よ、世の罪を取り除く神の小羊	23
25. 彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ	23
26. まことに、彼は私たちの病を負い	24
27. 私たちはみな、羊のようにさまよい	25
28. 彼を見る者はみな、彼をあざけります	26
29. 主に身を任せよ	26

30.	そしりが彼の心を打ち砕き	27
31.	よく見よ、彼をひどいめに会わされたこのような痛みを	27
32.	生ける者の地から絶たれたことを	28
33.	あなたは、彼のたましいをよみに捨ておかず	28
34.	門よ、おまえたちのかしらを上げよ	29
35.	神は、かつてどの御使いに向かつて	29
36.	神の御使いはみな、彼を拝め	30
37.	あなたは、いと高き所に上り、捕われた者を取りこにし	30
38.	主はみことばを賜わる	31
39.	良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう	32
40.	その声は全地に響き渡り	32
41.	なぜ国々は騒ぎ立ち	33
42.	彼らのかせを打ち砕き	34
43.	天の御座に着いておられる方は笑う	34
44.	あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き	34
45.	ハレルヤ	35

### 第Ⅲ部

46.	私は知っている。私を贖う方は生きておられ	37
47.	死がひとりの人を通して来たように	38
48.	私はあなたがたに奥義を告げましょう	39
49.	終わりのラッパとともに	40
50.	みことばが実現します	40
51.	死よ、おまえのとげはどこにあるのか	41
52.	しかし、神に感謝すべきです	41
53.	神が私たちの味方であるなら	42
54.	ほふられた小羊は	42
55.	アーメン	43

## メサイア ー史上最高の希望の歌ー

文 © 2012 アンソニー・ピッテンジャー Anthony (Tony) Pittenger

挿絵 © 2012 ジョナサン・メイヤー Jonathan Mayer

All rights reserved. Printed in the U.S.A.

[www.facebook.com/MessiahBook](http://www.facebook.com/MessiahBook)

BRIO 出版

12 South Sixth Street #1250

Minnneapolis, MN 55402

### 前書き

『メサイア』と私の恋は偶然に始まりました。大学生の時、私は勉強の邪魔にならないバック・ミュージックを探していました。

私は『メサイア』のCDを買い、それを聴きながら宿題に集中しようとしたのですが、残念ながらうまくいきませんでした。教会で洗礼と教育を受けてキリスト教の信仰を持っていた私は、この歌の中に自分の救いを聞いたのです。こうして『メサイア』と私の20数年にも渡る恋物語が始まりました。

私の恋心が膨らむにつれ、この曲を他の人に伝えたいという想いがつのっていきました。この本は、ヘンデルの『メサイア』の中で歌われている救いの約束の物語を皆さんと分かち合うささやかな試みなのです。

この本を次の人たちへ捧げます。

まず私の母ナンシーへ

私の幼少期に『メサイア』のレコードをかけてくれたことで、『メサイア』に対する愛の種を蒔いてくれました。それはやがて根を張り、成長し、花を咲かせました。

私の子どもたちカラリーナ、マイカ、ジャック、ニカへ

あなたたちが、天におられる御父（みちち）と御子（みこ）のことをより良く知ることができるよう、神が恵み深く私を用いてくださいますように。いつも素直な子どもらしい信仰で私を感動させてくれてありがとう。

最後に私の妻メリッサへ

あなたは私たちが『メサイア』の本やコンサートのチケットを買えない時にも、『メサイア』に対する私の狂おしい愛を広い心で励ましてくれました。メリッサ、救い主へのあなたの愛は周りの人たちを明るく照らしています。神がこの本を同じように用いてくださいますように。

私はのんびりと学生生活を送りましたが、その後、私の身の回りや世の中では多くの出来事がありました。祖国はテロリストによって攻撃され、多くの友人や家族がそれに対抗するために立ち上がりました。また大学と神学校時代の好景気は一変し、私の世代が今まで体験したことのない不況に陥りました。私自身も、子ども、義理の父、祖父母、そして多くの親しい友人との死別を経験しました。

私はこうした出来事の度に、無意識に『メサイア』に立ち返りました。ヘンデルの音楽と一体化した聖書の言葉は弱っていた私を強め、恐怖に陥っていた私を慰めてくれました。『メサイア』が明らかにしている希望のメッセージは数々の涙を乾かし、私のために天国に用意されている住まいを熱望するよう導いてくれました。そこで私は天使たちと天国に住む人々と共に、完璧なハーモニーで歌うことができるのです。

「御座にすわる方と、小羊とに、賛美と誉れと栄光と力が永遠にあるように。」

ソリ・デオ・グロリア (*Soli Deo Gloria* ただ神にのみ栄光)

アンソニー・ピッテンジャー

## 挿絵画家より

これほど広く知られ愛されている名曲についての挿絵を描くというおそれ多い依頼を受けた時、私は自分なりのガイドラインを作ることにしました。最初に決めた最も重要なことは、キリストを中心にするということです。これはヘンデルの目標でもありました。ヘンデルの音楽に敬意を表す一番良い方法は、音楽そのものではなく、それが明らかにしている救い主を強調することだと感じたのです。

もう一つの目標は、私たちの救い主の業を描写し続けてきた、私よりもはるかに優れた才能と恵みを受け継いでいるキリスト教美術の歴史の流れを汲むことでした。世の中には多くのクリスチャンの芸術家がいてペンや絵筆などを使って神聖な真理をとらえようとしています。私もその中の一人に過ぎません。ですから他のクリスチャンアーティストの多大な功績を軽んじることは考えられません。ここで描いた挿絵は、受け継がれ

る伝統に対する私のささやかな貢献の一つです。

すぐにお分かりになると思いますが、ヘンデルは『メサイア』の中でイエスがお話しになる場面を設けませんでした。その謙虚な姿勢にならって、私も「人間であるイエス」の顔を描きませんでした。これは、私たちが天国に行き、天使たちと共にイエスの側にいられる日までは、肉体的な目でイエスを見ることができないからです。信仰の目によってのみ見ることができるのです。

この本と挿絵が、ヘンデルの傑作をよりよく鑑賞するために役立つだけでなく、キリストが私たちに与えてくださった素晴らしい愛を、より深く理解させてくれる手助けになることを願っています。

ソリ・デオ・グロリア (Soli Deo Gloria ただ神にのみ栄光)

ジョナサン・P・メイヤー

## はじめに

この聖書研究の目的は、愛に満ちておられる天の父と子と聖霊の御名に栄光を表すことです。これは、チャールズ・ジェネンズが聖句を選び、ジョージ・F・ヘンデルが一つの音楽作品としてつなぎ合わせることによって具体化しています。最初から最後まで『メサイア』は、聖句にそった神学理論に基づいて、墮落した人間に対する神の愛を最も美しい形で私たちに伝えています。

これから『メサイア』を学ぶにあたり確認事項をいくつか挙げておきます。

1. 歌詞・台本(リブレット)の著者はチャールズ・ジェネンズ(Charles Jennens)です。
2. 作曲者はジョージ・フレデリック・ヘンデル(George Frederick Handel)です。
3. 『メサイア』は教会向けの作品としてではなく、一般聴衆のために作られ、1742年4月13日にアイルランドのダブリンで初演されました。
4. 一般聴衆に向けて作られたため、作詞家が意図的に聖書の言い回しを変更した箇所があります。ジェネンズは英国国教会派、ヘンデルはルター派の敬虔なクリスチャンでしたが、神学理論やキリスト教の教義をそのまま作品にするつもりはありませんでした。あくまでも、その理論や教義を自分たちの芸術的才能を通して表現しようとしたのです。

5. しかしそれは、二人が聖句の意味や神学的な内容を変更したということではありません。多くの場合、その変更はとても微々たるもので作詞家の目的に合わせたものです。例えば「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイの福音書11章28節)は、「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、彼のところに行きなさい。彼があなたがたを休ませてくれます」といったように人称が変えられています。

(訳者注:聖句の中で人称が変更されている部分は**太字**にしています。)

6. ジェネズはほとんどの聖句を欽定訳聖書(KJV)から引用しています。読者のみなさんも参照できるように聖書の引用箇所を記載しました。ただし詩篇だけは、教会に通うほとんどのイギリス人が慣れ親しんでいた英国国教会の祈祷書の中で使われる訳を使用しています。

## 形式について

1. ここから先のページでは、オラトリオの歌詞と聖書の引用箇所が、黒い四角の枠の中に金色の文字で書かれています。これが実際に歌われている歌詞です。残りの内容は、私の意見や考察、また解説となります。オラトリオの流れを保ち、理解をより深めるために、解説の英語の聖句はすべて欽定訳聖書から引用しています(訳者注:日本語の聖句は新改訳聖書を引用しています)。

2. この聖書研究書を書くにあたって私が利用した音源は、オックスフォード・キリスト教会大聖堂聖歌隊(Choir of Christ Church Cathedral, Oxford)によるものと、クリストファー・ホッグウッド(Christopher Hogwood)の指揮によるエンシェント室内管弦楽団(Academy of Ancient Music)のもの、そしてイギリスで1991年に発売されたデッカ・レコード社(Decca Record Company)のオワゾリール版(Lioiseau-Lyre edition)です。

## 聖書研究について

1. 『メサイア』の美しさは、神学と音楽との融合にあります。ですから、できるだけ音楽そのものが語りかけてくるものを大切にしてください。解説はなるべく曲が流れている間に読み、途中で曲を止めるのは最小限にしておきましょう。

2. 心苦しいのですが、時間節約のために作品を短縮する必要が出てくるかもしれませ

ん。ほとんどの音楽店で『メサイア』のハイライト版が売られていますが、それが必ずしも音楽的または神学的なハイライトとは限りません。単に人気の高いものの寄せ集めである場合があります。例えば、多くのハイライト版は「ハレルヤ」コーラスの直後で終わります。つまり第Ⅲ部がそっくり抜けているのです。オラトリオ全体は全てを聴くと2時間以上かかります。『メサイア』を聖書研究用に使う時、もし全てを聴くことができない場合は自分なりの抜粋版を用意することを考えてみてください。そうすれば、神学的なハイライトを自由に入れることができるでしょう。

3. 『メサイア』に含まれた神学を完全に理解するには、何年もかかるかもしれません。聖書研究会の参加者には『メサイア』のハイライトだけではなく、全曲が入っている音源を準備し、自宅で曲を聴くときの手引きとして本書を使うよう薦めてください。

## 第 I 部

### 1. 序曲/シンフォニア

ヘンデルの『メサイア』は悲しく陰気な音色で始まります。この暗さは不信仰の者、暴力の被害者、そして腐敗と死に縛られている私たち全人類のことを表しています。最近のニュースに目を向けてください。肉親に虐待される子ども、事故や犯罪、自然災害や戦争。このような罪の暗い結果を、あなた自身も体験したことがあるはずです。誰かがあなたに対して犯した罪、そして自分自身の罪に対して感じた罪悪感や恥などです。あるいは、病気や身近な人の死などかもしれません。

暗い音色は途中で一変します。まるで地平線の向こうに希望が見えるかのように、そして誰かがこの苦しみを解決してくれるかのようにメロディーが明るくなります。この誰かとはまさしく、ヘブル語で「メシア(英語読みでメサイア)」と呼ばれる方のことを指しています。

「メシア」とは「油注がれた者」、もしくは「選ばれた者」という意味です。これは、人類の救い主として神が遣わすと約束された方についての、旧約聖書的な言い方です。「メシア」は、神の約束として古くから受け継がれてきた希望を表しています。

教会における説教の役割は、神の御言葉(みことば)の真理を宣べ伝えることにあります。ヘンデルは、聖句に含まれる救いの真理を音楽と歌で表現することにより、史上最高の説教をしたのです。

### 2. 慰めよ、わたしの民を

イザヤ書40章1-3節「『慰めよ。慰めよ。わたしの民を』とあなたがたの神は仰せられる。『エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その労苦は終わり、その咎は償われた。そのすべての罪に引き替え、二倍のものを主の手から受けたと。』荒野に呼ばれる者の声とする。『主の道を整えよ。荒地で、私たちの神のために、大路を平らにせよ。』」

*Isaiah 40:1-3 Comfort ye, comfort ye my people, saith your God. Speak ye comfortably to Jerusalem, and cry unto her, that her warfare is accomplished, that her iniquity is pardoned. The voice of him that crieth in the wilderness, Prepare ye the way of the LORD, make straight in the desert a highway for our God.*

イザヤは、イスラエル王国がアッシリア帝国に滅ぼされた時代(紀元前 722 年)に生きた人で、神の言葉を伝える預言者でした。アッシリアがさらに南のユダ王国に進軍した時、ユダの町が破壊されました。ユダがアッシリアに降伏し属国となろうとしている時に、イザヤは人々に対して初めて語りかけました。アッシリア軍がエルサレムを包囲している中で、神はイザヤを通してユダの救いと慰めを約束されました。この預言は、その後、ペルシャ帝国の王クロス(キュロスと表記されることもあります) II 世によってユダの人々が解放され、祖国を再建したことで成就されました。

現実には、敵国によって征服され捕らえられるよりも、もっと悪い事が存在します。さらに言えば、神の民がクロス王に救われたことよりもっと素晴らしい救いが存在します。私たちは罪、悲しみ、心の痛み、恐れ、心配、暴力、流血、戦争、死などから逃れることができません。悪魔に征服された状態の私たちは誰もが罪の支配下にあり、神の目から見て有罪であると聖書ははっきり伝えています。

一方で、イザヤは偉大な救いについて語っています。それは、罪の責任と結果からの救いです。新約聖書が書かれた時代(紀元 1 世紀)の預言者である洗礼者ヨハネの言葉は、イザヤ書 40 章の意味をより深く説明してくれます。ヨハネは主の道を準備するために神に選ばれました。彼は、罪と死と地獄からの神の救いの約束を宣言しました。つまり、神の約束された救い主の到来を宣言したのです。

序曲で聞いた暗い音色とここの旋律との違いに注目してください。こちらは序曲に比べ静かで心休まる曲調です。「慰めよ、わたしの民を」は、朝焼けの空が、新たな一日という希望の色で優しく満たされていくようです。さらに「成し遂げられた(accomplished)」、「赦(ゆる)された(pardoned)」という言葉は最終宣告のように歌われています。この



物語は始まったばかりなのに、もう結末が知らされています。私たちの救いは成し遂げられ、罪は赦され、救いの御業（みわざ）は完了するのです。

### 3. すべての谷は埋め立てられ

イザヤ書 40 章 4 節「すべての谷は埋め立てられ、すべての山や丘は低くなる。盛り上がった地は平地に、険しい地は平野となる。」

*Isaiah 40:4 Every valley shall be exalted, and every mountain and hill made low: the crooked straight, and the rough places plain.*

この部分で使われる低音は、聴く者を谷底へと導いていきます。やがて、神の愛の光に満ちた高みに引き上げられるのが聴こえてきます。そして高い音によって山を越えたかと思うと、また低い所に降りていきます。ソリスト(独唱者)が「crooked (盛り上がった/曲がりくねった)」と歌うと曲がって聴こえ、「straight (平ら/真っ直ぐ)」と歌うと言葉通り真っ直ぐに聴こえてくるのです。ヘンデルは、あたかも画家が絵の具と筆を操るように、思いのままに音を操っています。

この歌は約束された救い主についての歌です。救い主が来られる時、人間の傲慢、山のように高くなったプライド、めまいがする程の自己義認など、そびえ立つ山々はすべて救い主の前で低くされます。イエスは「なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ」とルカの福音書 14 章 11 節で言うことができます。主の前で、人間は自分の方が神よりも優れているなどとは言えません。私たちはへりくだって、自分の罪を告白するしかないのです。

イエスはさらに続けておられます。自分を低くする者は高くされるからです」(ルカ 14 章 11 節)。これは、救い主が罪を深く悔やんでいる者を抱き上げて、力強くも温かい神の愛の光の中に置いてくださるという意味です。

### 4. このようにして、主の栄光が現わされると

イザヤ書 40 章 5 節「このようにして、主の栄光が現わされると、すべての者が共にこれを見る。主の口が語られたからだ。」

*Isaiah 40:5 And the glory of the LORD shall be revealed, and all flesh shall see it together: for the mouth of the LORD hath spoken it.*

『メサイア』のほとんどの演奏や録音では、ここで初めて合唱が登場します。オラトリ

オ全体を通して、合唱には特に注目してください。

合唱はほとんどの場合、一般の人々を表しています。つまり合唱は、私たちの声を代弁しているのです。神は全ての人間の前で神の栄光が現われることを約束されています。ヘンデルは合唱の中で、様々な場면을様々な声で表現することによって、その約束を強調しています。演奏を実際に聴くとソプラノ、アルト、テノール、バスの各パートが細かく分けられていることでその効果を実感することができます。

この部分は、色々なパートに分かれて歌われています。これは「その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの枝を手を持って、御座と小羊との前に立っていた」という黙示録7章9節の内容を表しています。「全ての肉 (All flesh)」とは、今の地球に生きる全人類という意味だけでなく、すべての時代に存在する人間を指しています。

救い主が預言通りお生まれになったので、ガラテヤ人への手紙3章28節に書かれているように「ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです」ということになります。ヘンデルは「主の御口がそれを告げたので (for the mouth of the Lord has spoken it)」というフレーズでそのことを強調しています。

## 5. まことに、万軍の主はこう仰せられる

ハガイ書2章6-7節「まことに、万軍の主はこう仰せられる。しばらくして、もう一度、わたしは天と地と、海と陸とを揺り動かす。わたしは、すべての国々を揺り動かす。すべての国々の宝物がもたらされ、わたしはこの宮を栄光で満たす。万軍の主は仰せられる。」

*Haggai 2:6-7 Thus saith the LORD of hosts: Yet once a little while, and I will shake the heavens, and the earth, the sea, and the dry land; And I will shake all nations, and the desire of the nations shall come.*

預言者ハガイはバビロン捕囚の後、故郷に戻った神の民に仕えました。ユダヤの歴史では、しばしばこの時期を「復興の時」と呼んでいます。こうした聖書の史実がこの預言者の存在を重要なものにしていきます。ジェネズとヘンデルは、これからやってくる神が約束した復興について、私たちに伝えているのです。

「万軍の主はこう仰せられる」は、強い権威に満ちています。「揺れる (shake)」という言

葉が文字通り揺れ動くのを聴いてみましょう。そして、「国民の望み (the desire of the nations)」のフレーズが始まると、音楽はより温かく、柔らかく、そして優しくなります。全ての人が必要とするのは「救い主」です。救い主は「全ての人 (all flesh)」が求めるべきであるのに、実際には多くの場合、必ずしも全ての国、全ての人を求めるとは限らないものなのです。

この救い主は、ユダヤ人たちが求めていたような政治的な救い主ではありませんでした。また、私たちが望み求めるものとも違った救い主のように思えます。その人は私たちの罪について語り、罪に背を向け、罪を捨て去るよう私たちに勧めておられます。人間の罪深い性質は、罪を見過ごし、都合よくゆるしてくれるような救い主を求めます。それはこの世での生活が、より快適になるよう力を発揮してくれるような救い主です。聖句は、神の遣わす救い主がそれと全く違うことを教えています。なんと目の覚めるような言葉でしょう。

## 6. あなたがたが尋ね求めている主

マラキ書 3 章 1 節「『見よ。わたしは、わたしの使者を遣わす。彼はわたしの前に道を整える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、来ている。』と万軍の主は仰せられる。」

*Malachi 3:1 The Lord, whom ye seek, shall suddenly come to his temple, even the messenger of the covenant, whom ye delight in: behold, he shall come, saith the LORD of hosts.*

マラキは神のご計画について、その詳細を交えながら預言し始めます。主ご自身が、「突然その神殿に来られる (suddenly come to his temple)」のです。預言通りにイエスは予期せぬ時に来られました。イエスはこの時と同じようにこの世に再び来られると約束されています。

この節とそれに続く二つの節は、罪を憎みながらも罪人一人ひとりを愛されるという、神の偉大な矛盾について教えています。この矛盾ゆえに、実に驚くべき事を成し遂げようと救い主が動かれるのです。

## 7. だれが、この方の来られる日に耐えられよう

マラキ書 3 章 2 節「だれが、この方の来られる日に耐えられよう。だれが、こ

の方の現われるとき立っていられよう。まことに、この方は、精練する者の火、布をさらす者の灰汁のようだ。」

*Malachi 3:2 But who may abide the day of his coming? and who shall stand when he appeareth? for he is like a refiner's fire.*

「全ての国の望み(the desire of all nations)」が来られる時、誰がその御前(みまえ)に立つことができるでしょう。その方は聖(きよ)い方ですが、私たちはそうではありません。私たちは、このままでは神の御座(みざ)に近づくことはできません。アダムとエバは、罪を告白する機会を与えられたにも関わらず、怖くなって神の御前から身を隠してしまいました(創世記3章を参照)。

神の律法には誤りはありません。しかしこの完璧な基準は、人間が罪を犯して以来私たちが決して手に入れられないものになってしまいました。神がイスラエル人をシナイ山のふもとに呼び寄せられた時、恐ろしいほどの神々しさのため、神が直接彼らに向かってお話しにならないようにと人々は願いました。イスラエル人は、神に代わって語りかけてくれる人物(預言者)を与えてくださるように神に願いました(申命記18章を参照)。

マラキが投げかける質問は、罪人の良心を目覚めさせる、熱い棒のようなものです。「彼は精練する者の火のようだ(He is like a refiner's fire)」と私たちは教えられます。神は、約束されたメシアによって、金や銀に含まれる不純物を取り除くように、私たちの全ての罪を取り除かれます。一体、「だれが、この方の来られる日に耐えられ」るでしょうか。自分自身の力では誰ひとりとして生き残れる者はいません。感謝すべきことに、人間はこの質問の答えを用意する必要はありません。シナイ山のふもとで、神はイスラエルの民に預言者をおくるということを約束されています。マラキ書3章3節も同じことを伝えています。

## 8. レビの子らをきよめ

マラキ書3章3節「この方は、銀を精練し、これをきよめる者として座に着き、レビの子らをきよめ、彼らを金のように、銀のように純粋にする。彼らは、主に、義のささげ物をささげる者となり」

*Malachi 3:3 And he shall purify the sons of Levi, that they may offer unto the LORD an offering in righteousness.*

合唱から、私たちはもう一度マラキ書3章2節の答えを聞くことになります。罪深い人類はどのようにして聖なる神の御前に立つことができるのでしょうか。その答えは、「神

がきよめてくださる」ということです。合唱では、神によって約束された救い主こそが、私たちが神の御前に出ることをゆるし、神が共に居てくださるという思いのもと声を合わせます。救い主を信じる以外に、私たちの捧げ物、つまり私たちの人生が神の目に義と認められる道はありません。

ヨハネの手紙第一 1 章 7 節「しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」

ローマ人への手紙 3 章 23-24 節「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」

## 9. 見よ。処女がみごもっている

イザヤ書 7 章 14 節「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。」

*Isaiah 7:14 Behold, a virgin shall conceive, and bear a son, and shall call his name Immanuel: God with us.*

『メサイア』は、マラキ書 3 章 2 節の質問に対する漠然とした答えから、より具体的な答えの内容へと移行していきます。音楽は子守唄のような優しくてやわらかい音色になります。実際のところ、神の救いのご計画は幼子誕生という形で実現するのです。

この短い部分は、メシアについての二つの重要な情報を明らかにしています。それは処女から生まれること、そしてその名前は「インマヌエル(神が共におられる) *God with us*」と呼ばれるということです。

## 10. 良い知らせを伝える者よ

イザヤ書 40 章 9 節「シオンに良い知らせを伝える者よ。高い山に登れ。エルサレムに良い知らせを伝える者よ。力の限り声をあげよ。声をあげよ。恐れるな。ユダの町々に言え。『見よ。あなたがたの神を。』」

*Isaiah 40:9 O thou that tellest good tidings to Zion, get thee up into the high mountain; O thou that tellest good tidings to Jerusalem, lift up thy*

*voice with strength; lift it up, be not afraid; say unto the cities of Judah,  
Behold your God!*

神の到来が告げられると、「be not afraid(恐れるな)」という優しくやわらかい声に引きつけられます。神は来られると約束してくださいました。「Behold your God(あなたがたの神を見よ)」というフレーズが何度も繰り返されます。誰一人としてそれを決して疑うことがないように。優しくやわらかい声にもかかわらず、そこには切羽詰った響きがあります。ソリストは、天使たちに対して「ぐずぐずするな、ためらうな。神に属する人々に処女から産まれた子こそが神なのだ、と伝えなさい」と励ましているのです。

イザヤ書60章1節「起きよ。光を放て。あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。」

*Isaiah 60:1 O thou that tellest good tidings to Zion, arise, shine; for thy light is come, and the glory of the LORD is risen upon thee.*

多くの演奏の場合、ソリストはイザヤ書40章9節とイザヤ書60章1節の両方を歌い、その後合唱が繰り返します。合唱が加わる時、彼らは自分を抑えられないかのように歌います。ありとあらゆるところから声が聞こえてくるのは、子どもが嬉しいニュースを伝えたくて黙ってられず、人の会話に割り込んでくるようなものです。この合唱はいつたい誰の声なのでしょう。それは、かつて恥と絶望に打ちひしがれていた神に属する人々の声です。神ご自身がそんな彼らを救い上げてくださいます。この合唱は教会、つまり間もなく訪れる神の降臨を喜ぶ聖徒たちの声なのです。

## 11. 見よ。やみが地をおおい

イザヤ書60章2-3節「見よ。やみが地をおおい、暗やみが諸国の民をおおっている。しかし、あなたの上には主が輝き、その栄光があなたの上に現われる。国々はあなたの光のうちに歩み、王たちはあなたの輝きに照らされて歩む。」

*Isaiah 60:2-3 For, behold, darkness shall cover the earth, and gross darkness the people: but the LORD shall arise upon thee, and his glory shall be seen upon thee. And the Gentiles shall come to thy light, and kings to the brightness of thy rising.*

ここでまた、神のいない世界について描写されます。罪によってもたらされた暗闇が地上を覆うのです。「Gross darkness(暗やみ)」という表現が音楽から聞き取れます。波のような表現で演奏され、歌われることによってそれがよく感じられます。しかし光が



人々の上を照らし、つまり主の降臨が近づくとつれ、音楽はより広がりを見せます。その音が地上の隅々にまで響き渡るかのようです。朝日が昇り、闇を追い払うのを止められないのと同様、神の愛とその恵みが広がるのを私たちは止めることができません。「この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった」(ヨハネの福音書 1 章 4-5 節)。

ここで使徒マタイが伝えている博士たちについて触れておくべきでしょう。彼らはエルサレムにやってきてこのように尋ねました。「『ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。』そしてその家に入って、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた」(マタイの福音書 2 章 2、11 節)。

どうして、三人の博士は東方の国から、はるばるユダヤ人の王を探す旅に出かけたのでしょうか。彼らが見た星とは何だったのか、また彼らがなぜユダヤの王が生まれたと確信してこのような行動に出たのか、私たちにはわかりません。民数記にはこのように書かれています。「私は見る。しかし今ではない。私は見つめる。しかし間近ではない。ヤコブから一つの星が上り、イスラエルから一本の杖が起こり、モアブのこめかみと、すべての騒ぎ立つ者の脳天を打ち砕く」(民数記 24 章 17 節)。

この節は、一つの星とイスラエルの王を結びつけていますが、博士たちがなぜ空で起こった現象がキリストの誕生のしるしだと分かったのか、はっきりとは教えていません。私たちに分かることは、神が異邦人を救い主に導いたということだけです。

## 12. やみの中を歩んでいた民は

イザヤ書 9 章 2 節 「やみの中を歩んでいた民は、大きな光を見た。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が照った。」

*Isaiah 9:2 The people that walked in darkness have seen a great light: they that dwell in the land of the shadow of death, upon them hath the light shined.*

聖書は光の創造で始まり、全ての信者が「世の光」と永遠に結ばれることを伝えて終わります。これは驚くべきことです。自ら闇を選び、つまずきながらさまよっていた人間に、神の方から近づいて来てくださったのですから。

暗闇は神への反逆によって人の世にもたらされました。つまり、アダムとエバが禁断の木の実を食べたことによってです。サタンが知識をもたらすと約束したものは、罪と死という暗闇をもたらしたただけでした。「死(Death)」が全人類にどのようにもたらされたかということ私たちに思い出させるため、死という言葉が長々と歌われている点に注目してください。ローマ人への手紙 5 章 12 節にはこう書かれています。「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、…それというのも全人類が罪を犯したからです」。

揺れるリズムによって、暗闇の中で道に迷っている人間が、確かなものを探っている様子が表現されています。すると、彼の足下に固い土台が現れ、光が上から照らすのです。

光が差し始める様子が圧倒的な権威にあふれて歌われます。光は神から生まれ、闇を追い払います。少し前までは永遠に続くかと思えた死という言葉の響きは突然消え失せ、完全に勝利に飲み込まれるのです。

### 13. 私たちのために

イザヤ書 9 章 6 節「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。」

*Isaiah 9:6 For unto us a child is born, unto us a son is given: and the government shall be upon his shoulder: and his name shall be called Wonderful, Counsellor, The mighty God, The everlasting Father, The Prince of Peace.*

ここでの合唱の加わり方に注目してください。はじめは小さな声で歌っています。そしていよいよ救い主の御名を歌い上げる時には、喜びを抑えることができません。神の御名が次のように叫ばれます。

#### 素晴らしい助言者(Wonderful Counselor)

神の御子は、私たちに助言を与え、指揮し、教えます。この方は、憐れみと赦しによって人々を導くのです。

#### 偉大な神(Mighty God)

神のひとり子は、すでに私たちが聴いてきたように、人間には不可能に思える約束を成就するために、神に属する聖なる権威を用いることができます。